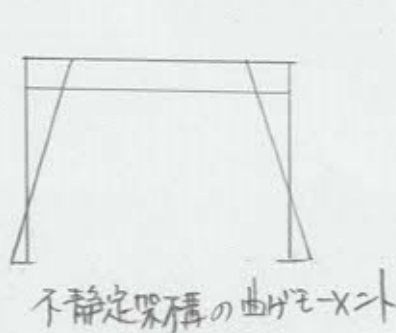
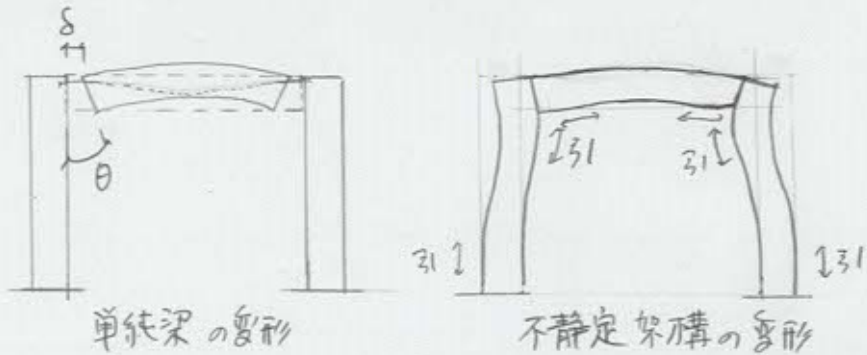


1. 不静定二次応力を考慮する

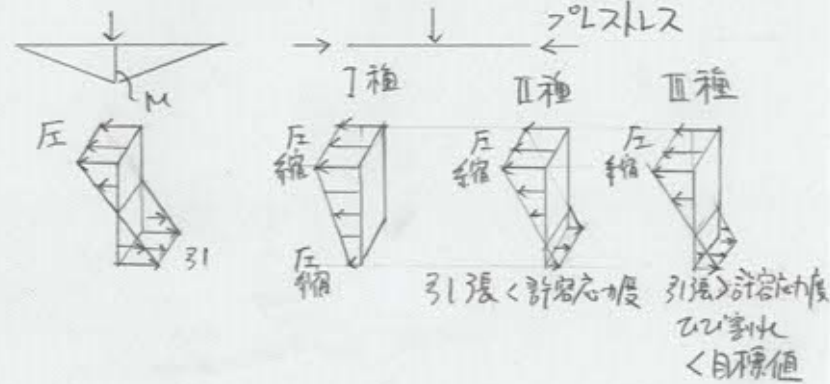
→ 拘束によって生じる応力  
 → 不静定架構にプレストレスを導入すると、  
 柱が単純梁の場合に生じる直前部の  
 回転角  $\theta$  および 軸縮みを拘束するため  
 応力が発生する。



2. プレストレスの設計種別

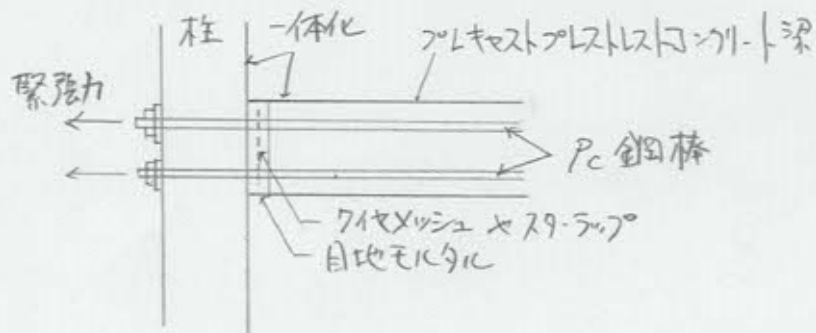
導入するプレストレスの大小関係: I種 > II種 > III種

- I種 (フルプレストレスリング): 長期荷重時に断面に引張応力が生じない
- II種 (パ-シャルプレストレスリング): 長期荷重時に断面に生じる引張応力度が  
コンクリートの許容引張応力度を超えない
- III種 (プレストレスト鉄筋コンクリート): 長期荷重時に断面に発生する曲げモー  
割れは目標以下とする



3. プレキャストプレストレストコンクリート造の梁と柱の圧着接合

→ 工場などであらかじめ製造された製品



4. プレストレストコンクリート合成梁

プレキャストプレストレストコンクリート + 現場打った鉄筋コンクリート

